

浅草寺病院だより

平成 28 年
【夏号】

平成 28 年 7 月 10 日発行
社会福祉法人浅草寺病院
東京都台東区浅草 2-30-17
☎ 03-3841-3330

理念

観音さまの大慈悲のみこころにそって、
思いやりの精神のもとにあたためた医療を提供します。



ご挨拶

整形外科部長 保坂 幸司

この度 2016 年 4 月より前任の金子 智則先生から交代という形で浅草寺病院へ赴任しました 保坂 幸司と
います。当院へ来るまでは獨協越谷病院を中心に埼玉県～千葉県で 15 年間、整形外科医として勤務してお
りました。浅草寺病院は以前週一回非常勤医師として外来を手伝っていたことがありましたが、都内で勤務する
のは久々であります。埼玉県は特に県北部は医療過疎地域であり都内に比べると、患者数に比し医師数が絶対
的に不足しており外来は多忙な状況でありました。浅草寺病院は周辺に大学病院を含め機関病院も多く、一人
一人時間をかけ丁寧に診察できるのではないかと考えています。

近年医療情勢も変わってきており「軽症で救急車を要請した際には有料にするべきではないか」、「大学病院に
受診するのに軽症であったら料金を高くするべきではないか」など高齢化に伴う医療費財源の切迫からそういった
議論もされております。特に整形外科領域では外用薬、湿布を含めた貼付剤が 2016 年 4 月以降より
月に 10 パック 70 枚程度という縛りが通達されました。湿布もなかなかもらいにくくなってしまった現在であるから
こそ地域住民の方と近い、丁寧な医療を行えるよう努力していきたいと思っています。

当院の整形外科は私を含めもう一名、竹本 俊二先生と主に外来・入院診療を行っております。整形外科
疾患は頸部から下の体幹、上下肢の愁訴を診療しています。腰痛、膝痛、頸部痛は一生のうち一度は経験する
症状と言われているので少し細かな疼痛であっても気になるようであれば一度外来へ足を運んでいただければ
と思います。よろしくお願い致します。

第 47 回すこやか講座を開催しました

去る 4 月 16 日浅草寺福社会館にて、第 47 回すこやか講座を開催いたしました。今回は、『パーキンソン病の
くすりリハビリ』と題しまして、神経内科 野本信篤 医師が講演し、63 名の方が足を運んでくださいました。

講座後の感想では「リハビリがとても大切だと思いました。」「多種多様な方法で詳しくわかりやすく説明して頂いて
感謝しております。長時間質問に丁寧に答えいただきありがとうございます。」「薬の話など分かり易くてよかったです。
リハビリの話も大変参考になりました。」など寄せられました。

すこやか講座は患者さんや地域住民に向け年 2 回実施しています。
次回は 10 月頃の予定です。皆様の健康維持に役立つ講演をお届けしたいと
思いますので、多くの方のご参加をお待ちしております。

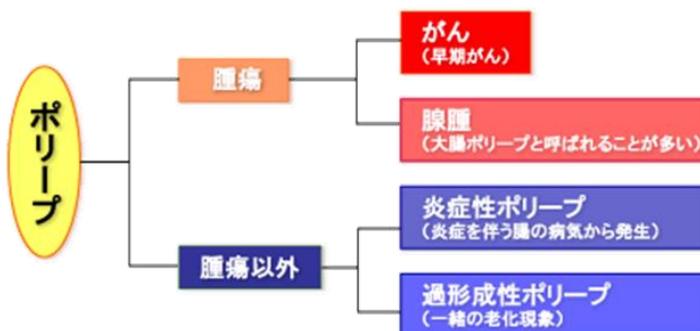


なぜ大腸ポリープは怖いのか？ =癌になるポリープに注意=

消化器内科 澤辺 暁人

大腸内視鏡検査で「大腸ポリープがありました」と言われて驚かれたことのある方は多いのではないのでしょうか。大腸ポリープは自覚症状が殆どありませんが、ある程度以上の大きさになると癌を含む可能性が高くなります。大腸がんはポリープが進行してがんになるケースが多いので、定期的な大腸内視鏡検査を行いがんに変化する前のポリープの段階で切除してしまえば基本的に進行がんで見つかることはありません。しかし大腸内視鏡検査は決して楽な検査ではないので敬遠されがちです。そして症状がでてから初めて検査を行い、進行がんが見つかるという方も少なくありません。ではどのようなポリープに注意が必要なのでしょう？大腸ポリープは図1のように大きく「腫瘍」と「腫瘍以外」に分けられます。腫瘍以外のポリープには炎症性ポリープ、過形成性ポリープなどがあります。これらのポリープは基本的に正常細胞が集まってイボ状になったもので、がんとは無関係です。放置してもがんになることは殆どありません。問題は「腫瘍」に分類されるポリープです。これにも良性の腫瘍と悪性の腫瘍があります。悪性の腫瘍がすなわち「がん」です。しかし良性だから大丈夫というものではありません。良性の腫瘍は「腺腫」と呼ばれ大腸ポリープの約80%を占めます。これが1cmを超えるとがんになる可能性が高くなるのです。従って腺腫が疑われるポリープは摘出する必要があります。一般的には5mmを超えたポリープが摘出の対象とされておりますが、近年5mm以下の小さなポリープにおいても積極的に摘出する施設が増えてきております。これまで一度も大腸内視鏡検査を受けたことのない方、またしばらく受けていない方は是非御相談下さい。

図1 ポリープの種類



発症する前に『区民健診』を受けましょう！

医事課

元気だったのにある日突然倒れた…。よく聞く話ではないでしょうか？

交通事故などはまさしく「元気だったのにある日突然降りかかるもの」であり予防できません。しかし、症状が無い病気については健康診断を受けることによって予防・治療できることがたくさんあります。

糖尿病や高血圧などのいわゆる生活習慣病はそれ自体では症状がないことも多く、重症化して心筋梗塞や脳出血といった合併症が起きてから気づくことも多いです。がんも年余にわたって進行し初めて症状が出るケースもあります。

しかし、これらの疾患も早期に治療すれば、合併症を予防でき治癒の可能性があります。これまで受けていない方にもぜひ『区民健診』を受けていただきたいと思います。

定期的に内科を受診されている場合は、通常の診察日に区民健診を受けられますので、診察の予約を入れる際に医師にお伝えください。注意事項が記載された区民健診の予約票をお渡します。

内科かかりつけでない場合は、毎週月曜・金曜午前の予約制になりますので、事前にお問い合わせください。

